

「支援金贈呈式」報告（8月10日）

芝浦工業大学校友会 福島支部は、「笑顔のまち なこそプロジェクト」に対する支援活動として、支援金贈呈を行いました。

贈呈式には、校友会福島支部から樋口支部長、震災直後から勿来の復興に関わり、後に大学の教授に就任し、このプロジェクトを立ち上げに関わった中村仁副学長、プロジェクト代表戸橋ななみさんらメンバー10人、そして、学生の面倒を見て頂いている NPO 法人「勿来まちづくりサポートセンター」理事長である館敬様の出席で行われました。



まず、支援金を送る側の樋口支部長からプロジェクトとの関わり、支援金に込めた思いをお話し頂きました。（要旨は囲み文参照）次に、中村副学長からは勿来地区との関わり、プロジェクト発足時の状況説明と校友会福島支部へのお礼の言葉を述べられました。

贈呈後、戸橋さんからお礼の言葉があり、記念撮影がありました。

その後の雑談では、普段のナックルでの生活の話し、校友会のおじさん達に対するイメージの話しなど、なごやかな雰囲気での話しが続きしました。11 月には、支部会員との交流を企画していることも話題になりました。

この日は、お盆帰省ラッシュと重なり、学生達が勿来に来るのが遅れるというハプニングもありましたが、午後からの勿来海岸ビーチクリーン活動は通常通り実施されました。

学プロメンバーの活躍、NPO 法人の支え、校友会福島支部の支援が重なることにより、勿来地区の街づくりに良い効果が生まれることが期待されます。そして、この経験により学生自身の成長にもつながる事を期待したいと思います。

皆様方のご検討と発展をお祈りいたします。

樋口支部長の話し(要約)

本日のビーチクリーン活動お疲れ様でした。（中略）

なぜ、校友会福島支部(支部)が学生プロジェクト（学プロ）を応援することになったのか出会いと支援金に込めた思いをお話しします。

昨年のある新聞記事から皆さんの活動を知りましたが、後輩学生が勿来で何をしているのだろうという興味が湧くと同時に、支部に若手勧誘の糸口はないかという期待もありました。（中略）

学プロの活動は、10 年以上地元の方々に寄り添い問題解決にとりくんでいます。現在は 80 名程のメンバーで、毎年新入学生と卒業生で人が変わりながら、180km 以上の距離を 2 時間以上かけて往復し、10 数年で数百名の学生が関わってきました。そこに、熱意と並々ならぬエネルギーを感じ、感動しました。

この活動は、勿来地区の為になるのは勿論、福島県の為、私達のため、大学のため、皆さん自身の為にもなっています。

この活動を通して、困っている人の為に動ける優しい知恵のある人になってください。

これが支援金に込めた思いです。

最後に、学プロの活動を支えて頂いている NPO 法人様と中村仁先生にも感謝申し上げます。

【ビーチクリーン】



ビーチクリーン活動 1



ビーチクリーン活動 2

【中村副学長のご挨拶】



中村副学長



ビーチクリーン活動 3



学プロメンバー1



学プロメンバー2

【支援金贈呈】



支援金贈呈